



園だより

3月号

令和4年2月25日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

自己肯定感を育む

まん延防止等重点措置が延長され、展覧会を参観から急遽、コドモンによる「展覧会のしおり」や「動画」の配信といたしました。ご覧になりいかがでしたでしょうか。描画や製作という表現活動を通して幼稚園の教育や子どもたちの成長をご理解いただけたことと思います。

17日付配信「展覧会に向けて」で、「展覧会のしおり」をお読みいただき、担任のねらいや取り組みの過程をご理解いただきたいと思います。さらに、できばえの評価につながる「上手」という言葉を使わずにほめてくださいとお願いしました。保護者の皆様は、これらをご理解いただき、たくさんの会話を交わしながら、子どもたちの思いに共感し、その子なりの表現をたくさんほめてくださったことでしょう。満足感を味わい自信をつけながら、一層主体的に遊びや生活を進める子どもたちの姿が多く見られ嬉しくなりました。ご理解・ご協力をありがとうございました。

ありのままの自分や価値を認められ、肯定される経験は自己肯定感を育みます。「やってみよう」と意欲的に取り組んだり、困難を乗り越えたりする際に、とても重要な生きる力となります。本園では、遊びや生活を通して、自己肯定感を育むことを大切にしています。

年長児は、「友達当てクイズ」を楽しんでできました。これは、まずグループに分かれ、代表が担任の持つ名札から1枚を引きます。グループの友達と相談し、引いた名札の友達について3つのヒントを考えます。それをクラスの友達に問いかけ、この友達は誰かを当てるゲームです。このヒントが実に素敵です。友達の良いところ、好きなものやこと、得意なことなど、友達を肯定したものばかりです。3年間遊びや生活を共にする中で、けんかや嫌なこともたくさんあったでしょう。しかし、そんなマイナスのヒントは全く出てきません。当てられた子どもは、自分を肯定されてとても嬉しそうです。3年間の幼稚園生活を通して、一緒に遊びや生活を進める中で、友達の長所も短所もありのままを受け入れることができた成長の姿です。とても嬉しくなりました。小学校という新しい環境の中で様々な人やことに出会う子どもたちを支える力となることでしょう。

年中児は、もうすぐ憧れの年長組になるという期待や喜びでいっぱいです。年長児から「園庭の片付け」の仕事を引き継いだり、自分たちが年長組になった時に、年少児として入園してくるプレ保育の子どもたちと遊んであげたりする機会を通して、自分が役に立っているという気持ちを体験していきます。この自己有用感も、自分の存在に価値があることを感じる事ができ、自己肯定感の芽生えにつながります。子どもたちの重荷にならないよう配慮しながら、この体験を大切にしたいと考えます。

年少児は、少しずつ友達のことが分かってきて、一緒に遊びたい友達と一緒にいると楽しい友達、大好きな友達ができてきました。登園時に、門から保育室までの短い間でさえ「OOちゃん」と呼び合いながら、会えたことを喜び、遊び始める姿は、本当に嬉しそうです。まだまだ相手の思いや考えを受け入れることが難しい年少児ですから、片思いとなったり、トラブルになったりすることも多いのですが、自分を待っていてくれる友達がいることはとても大きな喜びです。そして、自己肯定感の芽生えにつながります。

令和3年度の園だよりも、この号が最後となりました。保護者の皆様には、たくさんのご理解・ご協力をいただきました。お陰様で、無事に今年度を終えることができそうです。結びとなりましたが、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。残り少なくなった令和3年度ですが、一日一日を大切に、子どもたちの成長につながる充実した教育を進めてまいります。



実物大投影機で大きく写したオリンピック中継を先生や友達と応援しました。中でも、明るく声を掛け合って闘うカーリングは、子どもたちの心を揺さぶりました。年中児は、さっそくカーリングごっこを楽しんでいます。



「園庭片付け」が、年長児から年中児に引き継がれました。年長児には「教えてあげる」、年中児には「年長組の仕事をする」とそれぞれ自己有用感を体験しました。これも自己肯定感を育むために重要です。



年長児は、展覧会で「僕たち私たちが住みたい家」を協同製作する中で、目的に向かって自分の力を発揮し、友達と協力し合う楽しさを体験しました。その後、園庭に並べた家を年少・中児が嬉しそうに遊ぶ姿に、一層満足感や達成感を味わっていました。



年少児は、4月に進級すると初めてのクラス替えを体験します。スムーズに新しい生活に馴染み楽しめるように、学年での交流を行っています。